

走水小学校教育環境整備地域説明会 会議録

1 日 時 令和5年(2023年)11月20日(月)18:00~20:00

2 場 所 走水小学校 体育館

3 参加者 33名

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷 久乃
	学校教育部	部長	川上 誠
	学校管理課	課長	二見 裕
	教育政策課	課長	飯田 達也
	教育政策課	主査	大堀 圭輔
	教育政策課	主任	高品 慎介
	教育政策課	担当者	松本 勇人

5 議事内容

○飯田教育政策課長(事務局)

定刻になりましたので、走水・馬堀地域の教育環境整備についての説明会をはじめます。

本日、説明会の進行をつとめます、横須賀市教育委員会教育総務部教育政策課長の飯田と申します。

よろしくお願いいたします。

教育委員会事務局の職員を紹介いたします。

《 事務局職員紹介 》

なお、本日の説明会は、会議録を作成するため、録音をしたいと思いますので、ご了承ください。

それでは、お配りしました資料の2ページをご覧ください。ページ数については、資料の右下に記載しております。

まず、本日の説明会の趣旨について、説明いたします。

横須賀市教育委員会では、令和4年3月に策定した「横須賀市教育環境整備計画」に基づき、人口減少が進む本市において、学校規模の小規模化、施設の老朽化及び通学区域に関する課題等の解決に向けた検討を行い、市立小中学校の教育環境の整備を行うため、令和4年5月23日に田浦地域及び走水・馬堀地域における市立小中学校の教育環境整備の推進について、横須賀市立小中学校適正配置審議会へ諮問を行いました。

すでに新聞報道等によりご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、令和5年10月31日に、横須賀市立小中学校適正配置審議会から教育委員会へ「走水小学校区を馬堀小学校区に編入する方が妥当である」と答申されました。

本日は、答申までの経緯や答申内容等について、皆様へ説明し、ご意見をいただくため、説明会を開催いたしました。

なお、具体的な方策につきましては、今後、教育委員会議による審議を経て決定されます。

本日ご参加いただきました皆さまにおかれましては、答申内容に関する事、これまでの教育環境整備の経緯、統合された場合の影響や懸念など、様々なご意見や疑問、ご不安をお持ちかと思っております。

まず、事務局より説明を行い、説明後、皆様からのご質問やご意見をお伺いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、走水・馬堀地域の教育環境整備について、担当より説明いたします。

◀ 走水・馬堀地域教育環境整備について事務局から説明（資料） ▶

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、これより、質疑応答を行います。

答申内容に関する事、これまでの教育環境整備の経緯、統合された場合の影響や懸念など、なんでも結構です。

ご質問、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

○参加者

大変分かりやすい資料を作っていただきましてありがとうございます。

意見が二つあります。

一つ目は、横須賀市の人口減少と施設の老朽化について記載がありますが、横須賀市の見解を教えてください。

日本の人口が減っており、市町村の人口も減っているが、流山市や三郷市といったように人口が増えている自治体もあります。

小学校を閉鎖するということは、更に人口減少を加速させることだと考えます。

人口減少の加速に対して、横須賀市はどのような対応をするのかについて教育委員会は把握しているのかお聞かせください。

○大堀教育政策課主査（事務局）

横須賀市は半島の突端にあり、全国的に人口が減少している中で、新たに住む方が少ないという状況です。

市の施策として行っているのは、近隣自治体との住民の取り合いではなく、観光や文化、スポーツの面で、横須賀に来ていただく人口を増やし、経済の活性化等を行い、それによる税収等により、教育や福祉という部分を手厚くすることによって、人口を増やそう、といった考え方の施策です。

学校がなくなることによる地域の衰退ということのご懸念は、当然のご不安だと思っています。

それについては、地域別協議会や審議会でもご意見をいただいております、スクールバスや定期券の補助といった通学支援策を行うことでフォローしようと思っています。

○参加者

吉田市長の時代の都市計画方針のとおりだと思いますが、そのようにやっても横須賀市の人口は決して増えないと思います。それは市政としてやってきて、人口が減っていることから分かります。

最近までは走水小学校も90人以上という児童数でしたが、あっという間に30人程度になりました。同じような状況の学校が10校程度あり、なおかつ、50年以上経過した学校が多くあるという状況の中で、人口を増やすためには、他の県から人を呼ぶ必要があります。

走水小学校は、他の小学校と比べて大変特徴のある小学校です。走水小学校を使って、他の地域から人を呼べるような施策を行ってほしいです。これだけ自然環境に恵まれた小学校は他にはないと思うので、それをもって他の地域から人を呼べば、小学校に入ってくるのではないかと思います。

横須賀市の他の小学校は、全国にある学校と差がない、特徴のない学校だと思います。ここまで海から近い小学校はなく、そのような小学校が廃校になるという記事が新聞やインターネットにも載っています。これを武器として、もう一度、走水に人を呼び寄せることができなければ、横須賀市の人口を増やすことは難しいと思います。

基本方針の作成はコロナ禍の前だと思いますが、コロナ禍で時代が変わり、リモートワーク等により、東京に通わなくても仕事ができるようになりました。東京で学校に行きたくない児童等が、地方の環境の良い地域に住みたいと思うと思います。

こんなところに住んでみたい、という話を聞きますし、小学校の人数が減っている分、住宅はあります。それを生かして、走水にもう一度人を呼び寄せることができると良いと思います。

横須賀は大変魅力的な土地です。急傾斜やレッドゾーンは多いですが、海が綺麗ですし、夏は東京からたたら浜に泳ぎに来て、店を利用していただいている方が多くいます。

3年程かけて、たたら浜が綺麗だという話をお客様にお伝えしたところ、それを広めていただき、たたら浜で泳ぐ方が増えています。それと同じように、横須賀市と教育委員会、横須賀市民が努力して人を呼ぶことが、走水に限らず大切だと思います。

人を呼ぶに当たっては、走水は良い材料であり、走水小学校は人を呼ぶことができる小学校だと思います。

こういった意見を、教育委員会から横須賀市へ伝えてほしいです。

○大堀教育政策課主査（事務局）

現段階では教育委員会が窓口ですので、このような意見があったことは、市長部局へお伝えしたいと思います。

○参加者

これまで7回、地域の代表者が地域別協議会に参加して、いろいろな発言をされています。

郷土愛、学校愛、子どもを愛する気持ちが溢れていて感動していました。走水小学校を廃校しないように、誠心誠意頑張っていることに敬意を表します。

小中学校の適正規模や適正配置に関する基本方針が策定されたのは平成19年度だと思います。その際に検討された、学校規模や配置の内容は、今回の検討においても変化がなく、適正学級数は12学級から24学級と解釈していますが、それでよろしいでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

横須賀市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針が策定されたのは平成19年度ですが、平成29年度に基本方針の見直しが行われました。見直しの結果、改めて12学級から24学級が適正な規模であるとしています。

○参加者

12学級から24学級ということは変わってないということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

変わっていません。

○参加者

この間、少子化が急激に進んでおり、市内のほとんどの小学校において児童数が減っています。浦郷小学校や夏島小学校はやや増えています、5年程先には減少します。

そうすると、全小学校の児童数が激しく減少します。そのような状況の中で、12学級から24学級という基準を15年以上変更していないということについて、もう少し弾力的に考えた方が良くと思います。

例えば、12学級ではなく10学級にするといったことです。

単学級の小学校が8校、12学級になっていない小学校が14校あります。4年のスパンで2校ずつ減っていく計画だと思います。そうすると、8校について環境整備をしても、他の学校の児童数が減少するので、同じことの繰り返しになると思います。

12学級だとクラス替えができるという考え方ですが、それで良いのかどうか疑問です。10学級でも、半分はクラス替えができます。

これは基準だということには理解していますが、先を見越して検討していただきたいと思っています。

資料に記載の意見は、とても良い意見です。走水小学校を大事に思い、心配してくださ

る方が非常に多いと感じます。課題も指摘されていますし、良さも十分認められています。4年のスパンではなく、もう少し長期的に見てほしいです。

県営住宅は2年のうちに新築されて、とてもモダンな住宅ができると思います。しかし、少子高齢化により70%程度の入居率で、空きが50戸程度あるといった課題がありますが、国防についての日本の課題というものもあり、防衛大学でも4大隊から5大隊にする計画があります。そうすると、今は学生が1,800人ですが、プラス500人になり、教職員も増える可能性があると思います。勤務状況のスパンが短くなり、今まで4年務めていた人が2年で転勤するといったり、子どもが高学年になると引っ越してしまうといったこともあるので非常に難しい問題ではあると思いますが、もう少し余裕を持って、5年や10年スパンでやっていく必要があり、多くの課題がある中で、答申が出ました、統合します、といったことで良いのか疑問に思います。

走水小学校の教育資源は半端ではないです。横須賀市で一番だと思っています。学区の周りに地層、水源地、福祉施設、赤檜群生、竹林の群生があり、三浦半島の植物が分かります。同心町の意味について、子どもたちが自分たちの考えで問題解決をしています。さまざまなことを発見、学習できます。関所や台場もあります。

2年生が1人になったという話があります。

走水小学校は、50人程度で推移しており、これ以上減らないという素晴らしい状況でした。しかし、統合問題が出たところ、廃校になって途中で転校することになるかもしれないということで、指定変更をして馬堀小学校に通わせている方がいます。それは4人程度ですが、走水小学校の児童数減少の一因になっていると思います。

走水の土地の状況を理解してください。2,000年近く馬堀と走水は交流がありません。トンネルは明治29年にできて、用があっても許可を取らなければ通ることができません。防衛大学、水源地、旗山崎公園、御所ヶ崎公園もあります。防衛大学の訓練所もあります。住むところがありません。これは明治時代からずっと続いてきています。

横須賀市が観光や文化スポーツを推進していますが、走水には恩恵がありません。

もう少し、慌てずに検討してほしいです。

○参加者

通学路の安全確保についてです。

走水小学校が廃校になった場合、走水は貧困家庭が多く、小学生1人で、徒歩で30分以上かけて馬堀小学校へ通学せざるをえず、事故や事件に巻き込まれる可能性が高いと思います。

通学路は、走水第1トンネルと第2トンネルを通る方法と、海岸の幹線道路沿いを通行する方法があると思いますが、トンネルは日中でも人通りが少なく、大人でも通る気持ちになりません。また、海岸からの通学も、海岸線は津波ハザードマップで、津波警報3メートルが発表された場合の津波浸水想定区域に指定されているので、災害に巻き込まれることが想定されますが、こちらの答申では、具体的にどこを通学路として考えているのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

想定している通学路においては、トンネルは通りません。横断歩道がなく、トンネル内は暗くてジメジメしており、歩道も狭いので、危険が伴います。

通学路としては、海側を歩き、ガソリンスタンドや湯楽の里の前を通ることを想定しています。

ただ、波が越えてくる場所もあるので、スクールバス若しくは路線バスを使った補助等を検討したいと考えています。

○参加者

走水小学校では、通学路に立って小学生を見守っており、何かあっても対応できるような状況になっています。そういったことが、馬堀小学校まで行くと対応できないのではないかと懸念しています。

小学生を1人で登校させるのは、世界各国の常識として、児童虐待です。教育委員会は、こういった児童虐待を公然と行うつもりなのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

登校については、同じ学校や同学年の子と一緒に通うことになります。

スクールバスであれば一緒に乗りますし、路線バスでも時間帯は同じなので、1人で登校するという想定はしていません。

○参加者

クラブ活動等もある中で、一緒に帰るということは難しいと思います。

付言において、通学路が遠距離となっている地域もあることから、今後は、全市的な遠距離通学に対する方策の検討が必要である、とありますが、この方策は具体的に何を考えているのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

意見として出ているスクールバスや通学の補助といった移動手段に加えて、走水であれば波が超えてくる場所や、他の地域であれば歩道が狭い、暗いといった危険箇所について地域ごとに対応を検討していきます。

○参加者

走水小学校についての具体的な施策を限定列挙していただくことはできますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

具体的にはスクールバスか通学補助を検討しています。

○参加者

お金の問題だけではなくて、バスの本数や運行間隔を認識して下さい。

走水に住んでいる人も非常に困っており、子どもたちにとってはより困ることだと思いますので、単なる補助ということではなく、もう少し突っ込んだ検討をしてほしいです。

いくつか質問をします。

一つ目は、この答申が新聞発表された際の記事についてです。答申には統合時期については記載がありませんが、新聞記事では、早ければ令和7年度に行うという記載がありました。

このような断定的な記事が出てくるということは、記者発表の際に、教育委員会としてそのような発言があったのでしょうか。このような記事が出ると、来年走水小学校に行こうと思っていた人が、別の学校へ行ってしまう、また複式学級ということになりかねません。

このようなことを進めていくような新聞記事が出ましたので、どのように記者発表されたのか、その内容を知りたいです。

二つ目は、地域代表の方が地域別協議会でさまざまな発言をしました。その中で、地域別協議会は結論ありきで展開されてきたのではないかと趣旨の発言がありました。これに同感だと思っており、本日の資料でも、走水小学校の存続に関しては深いコメントがされていません。特に方策案3については、学級数が基準に満たないとされています。

児童数は非常に大事ですが、数が少ないということは以前から分かっているのですから、どうしたら存続できるかというところにもう少しウエイトを置いた議事進行をしていたら良かったと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

新聞の報道発表の件について、11月2日に記者に説明をし、その際に、いつから統合するのかご質問をいただきました。

今後方策を決定していくので、現時点では決定時期をお伝えすることはできない旨をお伝えした上で、今回の対象となっている田浦地域、走水・馬堀地域については、学校の小規模化、施設の老朽化といった深刻な教育環境の課題があり、事務局としては、決定される方策をできる限り早い段階で実施すべきであるという考えをお答えしました。

年明け以降に、総合教育会議及び教育委員会定例会において方策が決定するのであれば、令和6年の4月に統合では準備の時間が取れないので、最低でも1年程度の準備期間を要すると考えているということをお話しました。

そういった話が、令和7年4月という記事になったのだと思います。

結論ありきではないのかということについては、議事録、資料という形で地域別協議会の全てのご意見を附属機関である審議会にお伝えしており、併せて地域別協議会以外でいただいたさまざまなご意見についても、その内容をお伝えしています。審議会は、その上で答申を出していますので、決して結論ありきではないと考えています。

○参加者

私は埼玉から4年前に走水に来ましたが、森と海、自然に恵まれた走水小学校に子どもを通わせることができ、この上なく幸運でした。

本日は、学区の変更に関する答申を伺い、残念な気持ちになりました。

走水小学校とここに通う児童は、地域の宝物です。地域の神社やお寺の敷地に間借りしながら育った小学校は、150年の歴史を重ね、地域と深い絆で結ばれ、ここに住む人のアイデンティティとなっています。

メディアに流れた廃校という言葉に触れた地域の方々の落ち込みはいたたまれないほどで、見ていてとても悲しくなりました。

感情の部分はさておき、学区の再編について、質問をさせていただきます。

前提となる児童と地域の安全、コミュニティについて認識を同じくしていただきたいと思います。

一つ目です。通学区域を馬堀小学校区に編入し、通学先が馬堀小学校となると、児童の通学には海岸沿いの道を歩かなければなりません。強風のときに児童が歩くには非常な困難が伴い、危険です。それを避けるには、必然的にトンネルを通ることになります。

トンネルから走水方面に歩いていくと、国道16号の路側帯は十分な幅がなく、横断歩道也没有ありません。

バスで通学すれば問題ないとお考えになるかもしれませんが、スクールバスにせよ、京急バスを利用するにせよ、同じ時間が生じて、歩くことを選択する児童が出てくるでしょう。高学年ならいざ知らず、1年生や2年生が上級生の真似をして、歩道のない場所を歩いたり、横断しないとは言い切れません。交通事故をなくすことはできないかもしれませんが、現在の交通事情を考えた場合、安全を図る方策もないまま、簡単に通学区の再編を行うべきではないと思います。

二つ目です。小学校が地域の防災の拠点となっている点についてです。

昨日も地域の皆さんが参加する防災訓練を小学校で実施しましたが、災害発生時には小学校が重要な拠点となります。仮に小学校を移転させた場合は、この場所を防災センターや公民館として活用すれば良いとの意見もあるでしょうが、なじみのある場所だから、住民は集合もするし活用もします。普段から誰も使わない場所には来ないし、そのためだけに施設を維持するのは不経済になります。

山と海に隔たれた走水の住人が避難する場所として、走水小学校が機能しているのは、地域の小学校として、住民が認識しているからであり、ただ、施設を作っただけでは、住民の心理的な障壁も高く、緊急時の利用に大きな障害があると思います。

三つ目です。小学校は地域の文化や伝統の担い手として、地域ぐるみで交流を活発に行ってきました。神社の神事に限らず、事あるごとに、小学校では地域と密接に繋がった活動をしてきました。

通学区域が再編となった場合、こうした、祭礼や行事にこれまでとおりに児童を参画させることができるのか不安を覚えます。

今年の祭事をお手伝いして、横須賀地区のお祭りがこれほど楽しく、子どもも大人も一体となって行っていることに驚きました。こうした祭事は小学校設立以前からあり、小学校の協力がなくても実行は可能でしょうが、走水やその周辺地区のように、老若男女が一体となっている神事はなかなか目にすることはありません。

審議会のご発言で、走水や田浦を特別とする理由についてのお話がありましたが、地域の伝統とともに150年の歴史を積み重ねるのは容易なものではありません。

公正公平な観点から、特別な事情として斟酌するには及ばないような趣旨の発言もありましたが、それは走水の住人にとって、地域の誇りが否定され、知識さえあれば、経済を活性化させれば、それで教育が事足りるとした浅い意見のように感じます。

走水小学校が実施している、地域の繋がりや誇りを感じるさまざまな教育環境は、何物にもかえがたい貴重な財産だと思います。

この素晴らしい、宝物のような小学校と環境が失われようとしていることが、非常に残念でなりません。

以上の認識に基づいて質問をさせていただきます。

小学校が地域の防災拠点として、地域の文化の担い手として機能していることを認識して、通学区域の再編によって、これらの機能が失われないような配慮をする用意があるのか、また、通学区域の変更によって、子どもの安全を損なわないような配慮を期待して良いのか、それを誰が、どの立場で約束していただけるのか、審議会委員や市長に伝えるだけでなく、我々の不安や疑問に対して、どなたか答えてくださるのか教えてください。

○大堀教育政策課主査（事務局）

通学の安全確保については、スクールバスや補助等で検討しています。

波が越えてくる部分やトンネルを歩いて通学するということは想定してませんので、安全策は必ず取りたいと思っています。

防災の拠点については、跡地利用の話にもなってきましたが、改めて地域の皆さまからご意見をいただきながら、防災機能の維持、これまで学校が果たしてきた地域活動への役割や機能といった部分をフォローできるような形で検討することになります。

文化や歴史、伝統等についても走水地域の皆様の思いの強さというものはひしひしと感じています。地域別協議会委員の皆さまからそういったお話をいただきまして、事務局としても、とても重いと認識しています。

自然環境を含めた教材としても適した地域だと認識しているので、教育委員会としては、より多く子どもたちにそういった教材等を提供して、教育の場として活用できるように検討したいと思っています。

学区が広がるということは、対象となる子ども携わる方も増えるということです。学校がなくなることで伝統や行事がなくなるということではなく、携わる方が多くなる、広域化するという考えでご理解いただければと思います。

○参加者

教育委員会では、12学級から24学級という基準ありきで、それを満たさないと統合だというような言い方をされているようで、大変に残念に思います。

児童数が少なくて教育の機会が失われることや、適切な規模の学校で勉強した方が良いという話は、頭では理解できますが、走水小学校がなくなるというのは感情論として残念です。

学校運営協議会という、学校の活動をより良くして将来につなげていこう、という話し合いを行っている会があります。その中では、小学校が地域の核として、中心的な存在で

あるべきだという言い方をされています。

走水小学校は、まさしく地域の活性化に繋がる拠点だと思っていますので、そこがなくなるということは、大変寂しく思います。

記事で出たように、令和7年ということで決着をつけようというお考えに聞こえました。

懸案として、将来的に多くの若年層に経済的負担を強いる額の設定になります、という意見が記載されていますが、現状として走水地区は少子高齢化しており、多くが高齢者です。児童も、防衛大学の官舎から通学している児童が多いです。

小学校がなくなると、若年層は入ってきません。歩いて通える小学校があるからこそ、近くに移住しようと思う方がいると思います。

学校が廃校になるというニュースが出た段階で、来年から走水小学校に通わせようと思っていた保護者が、馬堀小学校に通わせようと思う、ということはありません。もう少し猶予をいただいて、様子を見ていただきたいと思います。

走水は大変魅力のある地域であり、海が近くて良い環境だから、アパートを借りるという方が多いそうです。これは、走水だからこそであり、他の地区のアパートではありえません。そういった定住促進は教育委員会の管轄ではないと思いますが、市のどこの部署で積極的に行っていただけるのでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

定住促進策の担当は企画調整課です。

市の方針として人を増やすという施策は、直接的な補助等ではなく、観光やエンターテインメント、スポーツ等で人を呼び込み、経済を活性化し、その税収によって福祉や教育等を充実させることが、人口増に繋がるという考え方をしています。

○飯田教育政策課長（事務局）

市役所の中には、教育委員会や民生局等、子どもを対象にしている施策が多くあります。例えば、教育委員会では、令和3年度から中学校の完全給食化をしていますし、民生局は小児医療の18歳までの拡充といった施策があります。

少子化に歯止めがかからない中でも、そういった施策をそれぞれの所管が考えているということをご理解いただきたいと思います。

○参加者

仮に統廃合ということになるとして、統廃合という言葉はやめてほしいです。

統廃合というと、廃校になってしまいます。校歌もなくなってしまいますし、学校の歴史もなくなってしまいます。

統廃合した際は馬堀小学校という名前になると思っていますが、走水馬堀小学校だとか、馬堀走水小学校というように、形として残しておかないと歴史がなくなってしまうと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

答申の中では、走水小学校区を馬堀小学校区に編入する方策が妥当である、という表現になっていますが、編入ということではなく、考え方としては統合という形になります。これは、審議会においても事務局から説明しています。

廃校ではなく、二つが一緒になるという考え方ですので、新たな校名の検討も必要になると考えています。

横須賀市内の過去の事例としては、中央地区に坂本小学校と青葉小学校という二つの学校があり、今は統合して桜小学校になっています。これは統合という考え方の元で作った小学校であり、今回も同じような考え方で進めていきます。

○参加者

方策2や方策3について、懸案で対応できないという記載のされ方になっており、統合ありきで進めているように解釈しました。

適正規模について、12学級から24学級という基準が、平成19年から残っているという解釈でよろしいですか。

また、審議会の構成員に走水の住人や走水小学校で教鞭をとった教員は入っていましたか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

方策について、統合ありきかということについては、そうではありません。

学級規模の基準について、当初の基本方針は平成19年度に作成しました。その後、審議会等を開き、平成29年度に全て見直しをしました。

平成29年の段階で適切かどうかということを見直した上で、現在の12学級から24学級が横須賀市としては適正な規模だという考え方です。

審議会において地域の方が入っているかということですが、審議会は条例で設置している附属機関であり、各地域の話ではなくて全市的な視点を踏まえて検討、審議する組織となっていますので、該当地域の方は入っておりません。構成員は、それぞれの組織の代表の方です。例えば、町内会であれば横須賀市連合町内会から推薦を受けた方、PTAであれば横須賀市PTA協議会から推薦を受けた方、教員であれば小学校長会から推薦を受けた方、といったように、各団体の代表の方が出て、全市的な視点で検討します。

ただ、審議会では全市的な視点で検討しますが、それぞれの地域についての実情を把握しきれない部分があるので、各地域に地域別協議会を設置して、地域の皆さまのご意見を伺った上で審議しました。

○参加者

審議会の構成員の中には、走水の住人等が入っておらず、走水小学校長も入っていないという理解でよろしいですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

審議会には入っていません。地域別協議会に入っています。

○参加者

地域別協議会で良い意見が出ましたか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

資料に記載のとおりです。

○参加者

走水の住人や代表者が出ていなくて、走水を知らない人たちが統廃合しようと決定するのは少し乱暴だと思いますがいかがでしょうか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

そういったご意見もあるので、その前に地域別協議会で地域代表者からご意見を伺いました。

○参加者

本日もそういった会ですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

地域別協議会は地域の代表の方を集めてご意見を伺う会、本日は代表の方ではなく、地域住民や保護者の皆さまに対してのご説明と、皆さまのご意見を伺う会という位置付けです。

○参加者

昨年の11月にも地域説明会があり、走水の人たちが大勢集まっていろいろな意見交換をしました。

そのときに、走水小学校の廃校は地域の存廃に関わることだという意見が多く出ました。人の問題、住宅の問題、バスの問題等、いろいろな意見が出ました。

本日もそれに類した意見が出ています。こういった意見を教育委員会だけでなく、市全体として議論や意見交換をされたのでしょうか。或いは、県のレベルの話も出ましたが、こういったことを把握した上で、このような方向が導き出されたのでしょうか。

地域説明会で出た意見については、資料に記載がありません。これは、市が検討しなかったということなのか、した上で、資料に載せるまでもなかったということなのか、教えていただきたいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今回の検討は、走水小学校が小規模化してしまったということを発端として、その課題を解決するために、教育委員会がそのための方策について検討するという内容です。

仮に、統合に伴って地域が衰退してしまうというご意見もいただいていますので、それに対しては、今後、跡地の利用等で、これまで学校が果たしてきた機能や役割ということ、どういったものがあるのかということ、地域の皆さまのご意見を伺いながら対応していくことになると思いますので、ご理解いただければと思います。

○参加者

今のお答えは、結論ありきの答えだと思います。

教育委員会の問題ではなく、広く検討して欲しいと思います。

児童数の話をされると、次の議論がありません。そうではなく、もう少し先を見た考えを織り込んで欲しいと思います。

統合時期を先送りできないか、ということも含めて検討して欲しいと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

統合時期については、教育委員会の会議の中で決定する形になりますので、本日いただいたご意見はしっかりと伝えて、審議をしていくようにしたいと思います。

○参加者

昭和 51 年に大津小学校がマンモス化し、馬堀小学校が新設されました。その際、馬堀小学校の通学区域に馬堀町 1 丁目が入りました。走水小学校が統合した場合の 3 キロメートルよりは短いですが、子どもが歩いて 40 分以上の距離です。

目の前に大津小学校があるにも関わらず、遠くの馬堀小学校に通学するのか、ということで大反対があり、新聞にも載りました。

走水小学校と馬堀小学校にはお互いの良さがあり、両地域にもそれぞれの良さがあるので、学区の区切りを広めるといったシミュレーション等を丁寧にやっていただきたいと思います。例えば、馬堀海岸 4 丁目や鴨居 4 丁目走水小学校の学区に入れるなどです。課題が多くあることは承知していますが、それ以上に、走水小学校の教育や走水の町は素晴らしいです。

学習教材は溢れるほどあり、140 年以上の間小規模校でやってきました。走水小学校の歴代の教員はよくやってくれていました。

走水小学校はほとんどの児童が健康です。50 年間にわたって、市、県、国から表彰されています。

教える教育から自主性を重んじ、自らが考えて問題解決をしていくという新しい教育に基づいたときに、走水小学校の 6 年生は 8 人ですが、素晴らしい教育をしています。

湧水の研究から商品化もしました。子どもたちが自主的に調べ、実験し、そして問題解決をしました。それが町の活性化に繋がりました。

近所の喫茶店でも、子どもたちのそういった活動の中で、おいしい水をコーヒーに入れて売っています。8 人という少人数であっても、主体的な学習をしています。

今までは、140 年以上の間、1 学年の児童数が 1 名でなければ教員が加配されていました。そういったことも含めて、学校の良さを本当に理解しているのか、地域の良さをどれだけ理解しているのか疑問です。

地域別協議会においては、代表の方が一生懸命発言していて、とても伝わってきます。しかし、統合ありきで、話し合いが平行線で流れています。

走水の風土、歴史、文化と共存して、経済が豊かになっています。昨年と今年で観光客が 5 万人増えています。しかし、走水の町はどんどん衰退していきます。

走水へ引っ越してくる人たちも、遠くにある学校には危なくて通わせられません。

これは、子育ての環境を悪化させることであり、国の政策にも反することです。

仮に、馬堀小学校に行くようになった際は、通学補助に関して、公共性等の議論にもなるでしょうが、負担を軽減すべきです。

○参加者

走水小学校の校舎の建設費、総工費は何円程度ですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

申し訳ありませんが、手元に資料がありません。

○参加者

田浦小学校の校舎は70年で走水小学校の校舎は50年ですから、耐震工事も含めると、4億円程度の価値があると思います。これはそれなりに生かさないといけないと思います。

少人数でも問題ないと思っています。今後の20年の間で防衛大学の宿舎に係る売却の話もあり、人口増加が見込まれます。人口増加ができて、また立派な小学校として運営できると思います。

長い目で見れば、急いで廃校にする必要はないと思っています。

まだ価値のある校舎を捨ててしまうようなことはせず、もう少し様子を見てほしいです。

20年あれば、南側に住宅ができますから、地域として変わると思います。

横須賀市は全国でも人口流出が激しい町ですよ。子どもを大切に作る魅力的な町にするということがスローガンだったはずなのに、簡単に廃校というわけにはいかないと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

小規模でやっていけるというお話について、教育委員会としては、小規模は課題であると考えています。走水小学校は全学年1桁、2年生に至っては1人になっているという状況の中で、集団的な活動、多様な考え方、多様な子どもたちに触れる機会が少ないという課題があると考えています。

適正な規模であれば、いろいろな学習効果が出せると考えていますので、教育委員会としての考え方をご理解いただければと思います。

ただ、いろいろなご意見やお考えがあると思いますので、ご意見として伺いたいと思います。

建物についてですが、田浦小学校は建物と小規模の二つの課題を解決するために方策を検討しました。走水小学校については、建物の課題ではなく、小規模であり複式学級が発生している状況を課題として検討していますので、違いがあります。

建物が今後も活用できるということであれば、跡地の活用等の話にもなると思いますので、ご意見を伺いながら検討したいと思います。

○参加者

箱根町でがけ崩れがありましたが、箱根町にはレッドゾーンがありません。それは、箱根町という温泉地だから指定していないからであり、レッドゾーンはもともとでたらめなものです。

そのようなものに気を付ける必要はないと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

レッドゾーンに指定されていても、直ちに何かをしなければいけないという法令ではありません。

逗子で崖崩れがありましたが、そこはレッドゾーンではなくイエローゾーンで起きた事故でした。

直ちに何かをしなければいけないということではありませんが、建て替え等の際にはそれを避けるような対策が必要になってきます。

走水小学校のレッドゾーンについては、建物に若干かかっている程度です。

○参加者

小学校3年生と小学校1年生に入る子がいます。この状態でいると、小学校3年生の子は最後まで走水小学校に通います。

新しい1年生は、小学校が変わるのであれば馬堀小学校に行きます。それが子どもの答えであり、親はどう答えて良いかわかりません。

今まで、馬堀小学校から走水小学校を選んで通っていた方もいますので、そういったことも考えてあげてください。

子どもたちは不安を感じています。走水小学校にいつまでいられるのか、どのように考えているのか、親や教育委員会のことではなく、児童のことを考えてほしいです。先生たちと一生懸命やっていることも、ずっとここで経験してきました。

数日前にもジャズの演奏がありまして、そのときも、32名ではないような声でした。

運動会でも、他のところでは経験できないことがたくさんあります。

東京から臨海学校等で、夏に人が来るといったこともありました。そういった繋がりもたくさんあります。

走水を守るということも、私は大切だと思います。

登校できない子たちのこと、私たち住民がどのような思いで子どもたちに接して、今まで子どもたちと一緒に、一生懸命走水小学校に通ってきたことを考えると、また、走水小学校がなくなるということを考える、とても悲しいです。

高齢者からも、走水小学校がなくなったらどうするの、といった声を聞きます。

皆さんの声を聞いてあげてください。住民の声が教育委員会に届くようお願いします。

○参加者

この答申は、優先的に採用されますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

条例で設置している審議会において検討された内容、意見が答申なので、非常に重いものであると考えており、この方向で検討していく形になります。

○参加者

通学に関しての問題が解消されない限り統合しない、というような発言があったと聞いていますが、事実ですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

統合がなされるということであれば、統合と同時に通学の支援、通学の安全策が確保されていなければならないと考えていますので、準備したいと思います。

○参加者

安全確保が先にありきではなく、統合の結論が出てから、通学路の安全性を確保できるように動くということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

確定しなければ動けないので、動き出しはそのようになると思います。

ただ、現時点でいろいろな方策を検討しており、教育委員による通学路の視察等も行っているので、安全に通えるように、統合の時期に合わせてそれがスタートできるように、準備をしたいと思います。

○参加者

教育環境整備計画について、令和7年や令和8年まで検討を継続する可能性もあるということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

計画については、地域単位で考えています。走水地域であれば望洋小学校等もあり、将来的には、例えば中学校区単位で検討しなければならない地域もありますので、それについては段階的に検討していくという意味であり、今回の案件にかかる検討を継続するという意味ではありません。

○参加者

走水・馬堀地域だけではなく、望洋小学校も含めての検討が必要であれば、令和8年度以降にもやるということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

計画の見直しの際に優先する地域が決まるので、そこに望洋小学校が入るかどうかは未定ですが、検討する可能性はあります。

○参加者

立地条件的に見た場合、走水小学校と馬堀小学校の児童数が減った際には、今度は望洋小学校へ変わるという可能性もあるということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

望洋小学校も小規模になっていますし、通学区域が分断されているという課題もありますので、あくまでも将来的な課題として挙がってるというのが現状です。

○参加者

11月25日は、馬堀小学校と走水小学校との共同説明会ということですが、内容は本日より同じですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

説明する内容は同じです。

○参加者

本日の参加者がもう一度出席した場合、発展的な内容になりますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

時間も限られている中での開催なので、発言できなかった方や出席できなかった方も見越して、同内容で複数回用意しています。

○参加者

発言できなかった人がいた場合は出席すれば良いということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

そのとおりです。

○参加者

形式的に開催しているのでしょうか。

本日より明日、両地域で意見が出たから、教育委員会がまとめて、25日に発展的な内容をやるのであれば行こうと思います。もう少し遅くやれば良いと思います。

皆さん、走水小学校が大事です。

美智子妃殿下の関係で、地元の写真集を作って市に寄贈しました。

上地市長から礼状がきましたが、美智子妃市も走水の伝統文化にも興味があるそうです。

皆さま、走水について真剣になって考えています。

これだけ一生懸命言っているのに、形式的に地域説明会を行い、最終的にはやったから良いだろうという感じが見えるので、そういったことがないようにしていただきたいと思っています。

25日にもう一度行って、発言したら何かが変わるのでしょうか。

本日と明日の内容をまとめて25日にやるほうが良いです。

馬堀小学校は260人いるので、走水小学校から行ったら転校のようなものです。

1年生と2年生が3人しかいないというのがネックです。そこを突かれると何も言えなくなってしまうのですが、走水の良さを訴えることで、馬堀小学校から走水小学校に来てくれる児童がいるかもしれません。

走水が駄目だという雰囲気ではなく、走水は良い地域だという雰囲気にしたいです。

横須賀市長に手紙も書きました。伝統を大切にして、本当に走水は素晴らしいまちですね、という手紙が来ました。

宮内庁にも連絡しています。

走水の町を良くしようと思って、いろいろなことを考えています。

皆さまの話は、ほとんどが走水小学校を良くして欲しい、学校の校歌はどうなってしまうのか、といった心配でした。安心していません。

このような、安心していない中で統合をするのでしょうか。真剣に捉えていただきたいです。

6年間校歌を歌った人にしか分からないと思います。

皆さん、走水小学校が残ってほしいと思っていませんか。

《 参加者から拍手 》

残ってほしい方、もう一度拍手してください。

《 参加者から拍手 》

結論はこのようなことです。

○参加者

昨年の11月に地域説明会があったときにはまだ52名いまして、今は32名ということで、数字を出されてしまうと何も言えなくなります。

毎日子どもの見守りをしていますが、30分程度で登校が終わります。それを見て本当に少ないと思いますが、子どもたちはとても元気です。

運動会等のいろいろな行事に住民が関わっていて、素晴らしい運動会でした。

走水が離島であれば小学校を残していただけるのに、離島であれば良かったと思います。それぐらい価値のある学校だと思います。

先生方にとっても、とても良い教育の場になっているのではないかと思います。

このような小さい学校で子どもたちを教育するという、良い体験になるのではないかと思います。多くのお金をかけて32名を見ていただいているということは重々分かっていますが、そういった学校があっても良いと思います。

それを横須賀市の売りにできないでしょうか。

人数が少ないことが良いとは思っていません。人数を増やすために、横須賀市も力を入れていただいて、空いているアパート等を活用し、若い人を呼び寄せるといったことも考えていただきたいと思います。

子どもを増やすことは日本中の問題ですが、絶対にそう思います。ですが、走水小学校をなくしてしまったら、もう1度作ることはできません。

毎日見ている、この人数ではサッカーをクラス対抗でできなかつたりといったこともあります。馬堀小学校と交流を深めて一緒にやったり、春の潮干狩りを馬堀小学校から来て一緒にやるといった交流を深めていけば、人数が少ないという課題は解決できると思います。

個性を育てる良い学校だと認識して、走水小学校を残すように、横須賀市は考えていただくことを希望しています。

○飯田教育政策課長（事務局）

時間が迫っておりますので、質疑応答は以上とさせていただきます。

皆さま、貴重なご意見、ありがとうございました。

本日いただきましたご意見につきましては、事務局で取りまとめ、教育委員会議や市議会等にて報告いたします。

また、資料の35ページに事務局の問い合わせ先を記載しております。

ご質問やご意見等がございましたら、こちらまでお願いいたします。

最後になりますが、古谷教育総務部長より、皆さまへ挨拶申し上げます。

○古谷教育総務部長（事務局）

本日はお忙しい中、ご参加いただきまして本当にありがとうございます。

統合については、まだ正式に決定されたわけではありませんが、今回、教育委員会が諮問をして、その結果審議会から出された答申ですので、非常に重いものであると認識しています。

地域の方からは、統合を正式決定する前に、もう一度地域から意見を聞く場を設けるようにというお話もございましたので、本日、このような場を設けて、皆さまに背景、経緯、答申内容についてご説明しました。

この走水・馬堀地域は合計で3回の地域説明会を予定しておりまして、全て同じ説明内容となります。これは、走水地域、馬堀地域それぞれに、平日の夜間開催をした上で、平日の夜間では出席が難しい方については、土日にコミュニティセンターで開催する予定です。

地域説明会でいただいたご意見は全て持ち帰ります。そして、今後の教育委員会での審議に反映する予定です。

本日の皆さんのご意見を伺いながら、本当にこの学校を大切に思ってくださいの思い、これを真摯に受けとめました。

教育委員会としては、子どもたちの教育環境を第一に考えています。皆さまの、この学校に対する思いと同じぐらい強い思いで、走水小学校と馬堀小学校の子どもたちの教育環

境を、どのようにしていくのが一番良い選択だろうかということを考えながら、この施策を検討しています。

安全の確保は第一に考えなければならないことなので、答申を受け、今後協議をしていく教育委員にも通学路を実際に歩いていただきました。事務局も、この通学路については、実際にトンネルも、海沿いも歩いて確かめながら、確認をしました。

今後、皆さまのご意見を伺いながら、きちんとした形で確保したいと思っています。

日本全体が未曾有の少子化を迎えている中で、この統合はやむを得ない、断腸の思いで検討しています。

この時期に走水小学校、馬堀小学校にお子さんを通わせている保護者、児童には負担をかけてしまうことになろうかと思いますので、統合が決定した際には、教育委員会一丸となって、不安のないように統合が迎えられるよう、検討したいと思っています。

そのため、ご心配な点については、教育委員会に声を寄せていただければと思います。

また、これまで学校を支えてくださった地域の皆さまにとっては、走水の子どもたちが地域の宝であることはこれからも変わらないと思いますし、地域の皆さまが走水の子どもたちを大切に育んでいきたいという思いは、これからも同じだと思いますので、引き続き温かい目で見守っていただければと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、走水・馬堀地域の教育環境整備についての説明会は、終了とさせていただきますと思います。

本日は、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

以上